

株式会社ナンゴー

(京都府)

鉄に魂を込め「中途半端な試作」領域を狙う ものづくりコンシェルジュ

自動車関連部品の製造会社として創業。現在は、部品加工、試作・開発、省力化のための治具の製造を行う。2011年に数や大きさが中途半端な領域の金属加工を専門とした金属加工ソリューションサイト「中途半端ネット」を立ち上げる。このような規模の試作相談ができる場所がなかったため、反響は大きく、現在の事業の1つの核となる。

INTERVIEW

技術力を見せて伝える「ナンゴー彫り」

高い加工技術により様々な金属加工に対応する株式会社ナンゴー。取引先や受発注・生産の進捗などをデジタル化して管理する生産管理システムを開発・導入するなどして、毎月数十件発生する取引にも素早く確実に対応する体制を構築。また得意先のニーズに素早く対応するために労働環境の改善に取り組んだ結果、取引先数は大きく増加。「ナンゴー彫り」は技術力の高さを象徴するものであり、新規顧客の開拓や地域連携による商品開発へと結びついている。

関西ものづくり新撰に応募しようと思ったきっかけは

技術力をPRできる場を探していました

お世話になっていた京都産業21の担当者から「関西ものづくり新撰」への応募を薦められたことがきっかけです。「ナンゴー彫り」ができた当初、自社技術をPRできる場を探していました。できた製品を売りたいのはもちろんですが、顕彰で選定されるほどの技術力を持っている会社、という認識が広がって、他の仕事の受注につながることも期待していました。その効果か、北海道の高校や、中国、韓国から工場見学の依頼がくるなど、予想を超えた効果が出てきました。「関西もの

づくり新撰」のおかげで露出が広がったと考えています。また、当社には、京都府立京都高等技術専門学校(以下、技術学校)の卒業生の社員がいるのですが、彼は「ナンゴー彫り」を見て感動して入社を希望してくれました。4年後には、技術学校の後輩も入社していますし、技術学校からのリクルートのルートができたのは、嬉しかったです。営業の面でも、リクルートの面でも、「ナンゴー彫り」の開発に挑戦して良かったと思っています。

「ナンゴー彫り」の開発の
背景を教えてください

技術力をひと目で 理解できるものをつくる

マシニングを担当している五明さんから「金属への立体造形加工でステレオグラムをやってみたら面白いかも」と言われたことが開発のきっかけでした。その当時、展示会へ出展する機会が増えていたのですが、加工部品が並ぶだけだったので、お客様が驚くようなインパクトがあるものが欲しい、と考えておりました。社内では、立体加工ができるCADソフトも導入しはじめたばかりということもあり、色々試してみたいという機運が高まっており、すぐにやってみようとなりました。ただ、

インタビュー



代表取締役 南郷 真氏
プロジェクトグループ室 グループ長 奥野 英子氏
製造部 リーダー 五明 伸康氏
※左から五明氏、南郷氏、奥野氏

立体でステレオグラムを作るのは想像以上に難しく、開発に2年ほどかかりました。柄を作り出すソフトがあるので、紙で再現する場合は印刷するだけなので簡単ですが、金属に切削加工のみで柄を作ろうとすると、インクが使えないので、素材の色一色だけで柄を表現しなければなりません。削る深さや、何層重ねるかなど、表面の凹凸のみで綺麗な像を作るには、何度も調整が必要でした。それを従来の仕事をやりながら、空いた時間を使って開発していましたから、本人は大変でしたが、楽しみながら前向きに取り組んでくれました。時間をかけて試行錯誤した結果できたものなので、展示会に持っていった時に、来場者が驚いてくれた時の喜びはひとしおでしたね。

今後の展望をお聞かせください

仕事をとoshした社会への貢献

「ナンゴー彫り」では、地域のお菓子屋さんや漆職人と連携した商品開発も実現できましたが、今後も地域と連携した取組は増やしていきたいと考えています。当社は寡黙な職人が多かったですが、地域連携による商品開発や試作事業を始めたことで、社外と関係を持つ機会が増えており、提案やプレゼンが必要になってきました。さらに、事業を円滑に回す為には、社内の人材教育が必要です。ジョブ

ローテーションを採用し、多能工化を進めることで誰かが休んでも機械を稼働させられる体制を構築したり、技術伝承の場を設けて技術力の底上げを図ったりしているほか、月に1度、昼休みにプレゼン練習など自由参加の勉強会を行うなど、本来業務以外で活躍できる技術者の育成に力をいれております。このような試みを通じて、社員や企業が成長することで、社会に貢献していきたいです。

PRODUCT

新市場創出

対象製品選定年 2015年

ナンゴー彫り（ステレオグラム立体造形物化）



ステレオグラムとは、目の焦点を意図的にずらして眺めることで、単なる柄に見える模様から、イラストなど全く別の絵を浮かび上がらせる絵画手法のひとつです。いわゆる2次元アートなのですが、当社の独自技術であるステレオグラム立体造形は、切削加工によって作成された微妙な凹凸によってできる陰影から、ステレオグラム立体画像を浮かび上がらせることができます。

支援機関からの 推薦コメント

同社は確かな技術力を有しながらもPR方法に悩んでいたところ、選定をいただいたことで知名度アップに繋がりました。最近も異業種(伝統工芸)とのコラボを進めるなど進化を続けておられます。

支援機関情報

公益財団法人京都産業21
京都府京都市下京区中堂寺南町134
京都府産業支援センター
tel : 075-315-8590
https://www.ki21.jp/

会社情報

株式会社 ナンゴー

株式会社ナンゴー
代表取締役：南郷 真

京都府宇治市白川川上り谷80番地36
tel : 0774-28-3141 fax : 0774-20-4652
https://www.nango-kyoto.co.jp/

企業 HP



「ナンゴー彫り」誕生の経緯を
語る南郷氏